

平成24年 新年のごあいさつ

[2012年1月1日]

新年のあいさつを申し上げます。

皆さまには、さわやかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は年始の大雪に始まり、1月の新燃岳噴火、3月の東日本大震災、7月、8月、9月の梅雨前線豪雨や台風による大規模な土砂災害と、全国各地で未曾有の大災害に見舞われた年でありました。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。また、一刻も早い復旧・復興のためご尽力されている方々など多くの皆様に深く敬意を表します。

越美山系砂防事務所がある揖斐川上流域は、急峻な地形、活断層が集中し脆弱な地質に加え、多雨な気象条件と相まって、大規模な土砂災害が発生しやすい地域となっております。事務所としては、大規模な土砂災害に備え、関係機関と連携を強化し、監視・観測体制の整備や防災訓練等のソフト対策を実施するとともに、被害を軽減するための砂防施設の整備を推進していきたいと考えております。

また、砂防施設の整備方針としては、今後10年を目標に災害時要援護者施設や避難地・避難場所、災害時の防災拠点(旧役場等)の保全する砂防堰堤等の整備を重点的に進めたいと考えております。実施にあたっては、豊かな自然環境や地域の歴史・文化等に配慮しつつ、安全に砂防工事を実施していきたいと考えております。

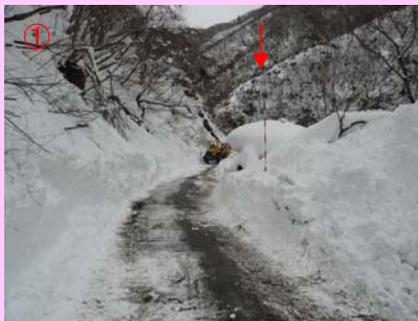
国民生活の安全・安心の確保のため、引き続き砂防事業を推進してまいりたいと考えておりますので、どうか本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

越美山系砂防事務所長 佐藤 保之



安全な道路確保のため・・・

砂防工事現場は山間地で行う工事が多く、場所によっては、1mを超える雪が降るところもある。もちろん当事務所管内も例外ではない。このような現場では、工事用車輛の安全な通行が出来るよう、降雪後には除雪作業を実施している。降雪量が数10cmも積もると、見る景色全てが銀世界。このため、道路範囲を示すポールを立てるなど、雪が降り積もる前から冬支度を実施。積雪の多い山間部ならではの取組がないと安全に工事は進まない。



～ 新しい年を迎え、工事再開 ～

日洞(ひぼら)谷ではコンクリートの打設日を考慮し、いち早く新年を迎える。堰堤打設も残り少した(写真A)。

高地(たかち)谷では、転流工事を実施中であるが、すっかり雪化粧していた(写真B)。

瀬戸(せと)谷の現場状況。数10cmの雪をかき分け、工事再開の準備が進む(写真C)。

エノマ谷は、年始休工日を1日繰り上げ、除雪作業を午前中に完了(写真D)。

高地谷、瀬戸谷では、降雪の影響により本格的な始動はやむを得ず1日遅れた。



= 景観に配慮した砂防施設が守るもの =

貝月(かいづき)谷では、大粒の雪が降り止まず、山の木々は白い衣装を身に纏った(写真E)。

貝月谷は、越美山系砂防事務所管内で唯一の「揖斐高原スキー場」(写真F)がある。一見砂防事務所とは無縁に思われるこの場所も、土石流が発生する危険性があり、人家または学校などの公共施設に被害を及ぼす恐れのある「土石流危険渓流」に指定されている。

このため、貝月谷では人が集まるスキー場内であるという特性も考慮し、景観に配慮した砂防堰堤や溪流保全工事を実施してきている(写真G、H)。

揖斐高原スキー場で砂防施設の見学はいかがですか？

